

---

## 春に土から現れたアカミミガメの幼体

三根佳奈子<sup>1</sup>・笹井隆秀<sup>1</sup>・上野真太郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 654-0049 兵庫県神戸市須磨区若宮町1-3-5 神戸市立須磨海浜水族園

<sup>2</sup> 113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻

Juveniles of red-eared slider appeared from the nest in spring in 2014.

By Kanako MINE<sup>1</sup>, Takahide SASAI<sup>1</sup> and Shintaro UENO<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Kobe Suma Aquarium, 1-3-5, Wakamiya, Suma, Kobe, Hyogo, 654-0049, Japan.

<sup>2</sup> Department of Ecosystem Studies, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, 1-1-1 Yayoi, Bunkyo, Tokyo, 113-8657, Japan.

---

2014年4月19日、神戸市立須磨海浜水族園内の淡水ガメ研究施設「亀楽園」において、土の中からアカミミガメの幼体を発見したので報告する。アカミミガメの幼体が発見されたのは、亀楽園のプール内に設置された植木鉢で(図1)、施設の管理作業のため土を掘削していた際に発見した。その個体数は3個体で、背甲長、背甲幅長、腹甲長、体重はそれぞれ28.8 mm・29.4 mm・27.0 mm・6 g, 29.7 mm・30.3 mm・27.8 mm・6 g, 28.8 mm・29.1 mm・27.2 mm・5 gであった(図2)。また、幼



図1. 幼体が発見された亀楽園内の植木鉢(手前)

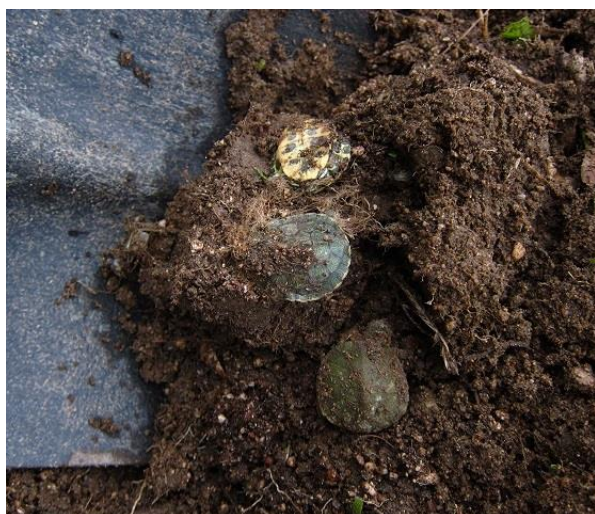


図2. 発見された幼体



図3. 幼体と共に発見された未孵化の卵

体が発見された産卵巣付近から未孵化の卵7個も発見した(図3)。原産地アメリカではアカミミガメは4～7月に産卵し、6～10月頃に孵化するが、孵化した個体の一部は孵化直後に野外に出現せず、産卵巣の中で越冬することが報告されている(Ernst et al., 1994; 安川, 2007)。しかし日本においてはこのような報告例はない。原産地においてアカミミガメの孵化幼体の背甲長は $32.2 \pm 1.48$  mm(N=95, range 28.0-35.4), 腹甲長は $30.5 \pm 0.18$  mm(N=95, range 25.2-33.4), 体重は $7.25 \pm 0.08$  g(N=95, range 5.10-8.77)であると報告されている(Tucker, 1999)。今回、確認されたアカミミガメの幼体は上記のサイズの範囲内であることから、孵化後に土中にとどまり産卵巣の中で越冬していたものと考えられた。今後は日本における春季のアカミミガメ幼体の出現情報を集積し、その詳細を整理したい。

#### 引用文献

- Ernst, C. H. and J. E. Lovich. 2009. Turtle of the United States and Canada (2nd ed.). The Johns Hopkins University Press, Maryland. 827 p.
- Tucker, J. K., 1999. Environmental Correlates of Hatchling Emergence in the Red-Eared Turtle, *Trachemys scripta elegans*, in Illinois. *Chelonian Conservation and Biology* 3(3):401-406.
- 安川雄一郎. 2007. アカミミガメ属(スライダーガメ属)の分類と自然史1. クリーパー 36:30-50.